

2024年 5月 18日
13:00～16:00

繊維学会 第 709 回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事 大田康雄、辻井敬亘、奧林里子、村瀬浩貴、松葉豪、中澤靖元、武野明義、末信一朗、櫻井伸一、吉村利夫、鬘谷要、花田朋美、竹中幹人、木村睦、神山統光、竹本慎一、清水宏泰、森下美由紀、吉松丈博、濱田仁美、増田正人、逸見龍哉、

欠席理事 内田哲也、道信剛志、齋藤継之、大松沢明宏、山崎睦生、香出健司、佐瀬正和、出口潤子

監事 金谷利治、土田亮、小原奈津子 (順不同、敬称略)

会場 オンライン開催

大田会長の司会で、理事 30 名のうち、出席理事 22 名、監事 3 名の出席を確認した。過半数の理事の出席があり、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、オンライン開催（執行部のみ対面）にて行い、理事の意思表示は発言や挙手にて決議した。続けて、大田会長が議長となり議事に入った。

2. 審議事項

1) 会員入退会の件・・・<資料 1>

5 月 15 日（水）現在の会員数について別紙の通り報告された。正会員数 998 名（正会員 919 名、名誉会員 15 名、永年会員 56 名）、学生会員 329 名、維持会員 11 団体（増減なし）、賛助会員 89 団体。学生会員数の大幅な増加は、本年度年次大会での発表申込み、ならびに、ISF2024 への発表申込みによるものであることが説明された。昨年度末に 1,000 名以下となった正会員についても、新年度に入り新規入会申込みが増えたことも報告された。また、引き続き、理事へ今後の会員増強に関する協力が求められた。資料 1 に基づき、入退会についての承認を求めた。

【審議結果】

入退会報告について、異議なく承認された。

2) 2023 年度事業報告承認について・・・<資料 2>

2023 年度事業報告について、資料 2 に基づき読上げを行い、内容等について再度確認を行った。その上で、総会資料として提出してよいか承認を求めた。

【審議結果】

繊維基礎科学研究委員会活動について活動内容の一部追記、また、医用材料研究委員会名の誤字修正を前提に、総会に付議することが異議なく承認された。

3) 2023 年度決算報告承認について・・・<資料 3>

財務担当村瀬副会長より、資料 3 に基づき、本年度の収支決算について説明がなされた。2023 年度貸借対照表に基づき、【流動資産】29,620,802 円（こちらは、昨年とほぼ変動なし）、【固定資産】基本資産 1,000,000 円、特定資産 60,751,921 円、その他固定資産 1,030,979 円で、固定資産合計 62,782,900 円となり、資産合計 92,403,702 円である。

【流動負債】 7,578,281 円（会費前受金と職員預り金）、【固定負債】 10,987,441 円（退職給付引当債務）、【一般正味財産】 81,416,261 円となり、昨年度に比べ、△ 5,549,768 減となった。

2023 年度財産目録

・固定資産の特定資産積立について、顧問税理士より通帳の統合について指摘を受けたことが伝えられ、それを受けて、4月27日（土）に開催された監査委員会において、順次、口座の統合を進めることについて承認されたことが報告された。

2023 年度正味財産増減計算書

- ・正会員、維持・賛助会員様の退会を受け、本年度の受取会費が△ 1,902,134 円減
- ・事業収益 学会行事収益の講演会行事収益が、前年比△ 4,702,000 円と大きく減収となっているのは、2022 年に ATC-16 国際会議を開催したことに伴うものである。
- ・同じく、事業費・外注費についても前年比△ 1,838,780 円は、ATC-16 開催にともなう運営業者への支払いによるものである。
- ・正味財産期末残高は、前年比△ 5,549,768 円となっているが、基金からの取崩しが、予め決められている部分が含まれることが説明された。内容として、小島基金積立から学生会員費 700,000 円、リカレント教育支援制度 1,500,000 円、学会賞 772,476 円、職員退職金積立 880,800 円が該当する。不測の事態として、学会事務局のガス漏れに伴う工事費用 571,064 円を含む。所定の支出が 4,424,340 円となった。
- ・その他、支部・研究委員会への本部支援金
- ・実質、事業収支としてのマイナスは 1,125,428 円となること、今回のマイナス収支の要因としては、会費収入の減収と対面行事の再開などに関わる様々な支出増、物価の高騰なども背景にあることが説明された。取崩の表現がネガティブに聞こえるが、元々目的を持って貯めてきた基金から、正しい用途へ使われていることへの理解も求められた。
- ・現状、繊維学会の資産はまだ潤沢であると言える一方で、毎年約 500 万円の取崩が続くと、10 年後には基金や財産も枯渇することから、今後一層努力して収支プラスに転じることができるよう行事運営など考えていきたいことも伝えられた。

【審議結果】

2023 年度決算報告について総会に付議することが異議なく承認された。

4) 本年度予算見直しについて・・・<資料 4>

3月の理事会にて承認いただいた予算案について、決算資料に基づき修正を行った。資料 4 に基づき説明され、本年度の事業計画に則って、修正した予算案にて学会を運営していくことについて提議された。

【審議結果】

2024 年度予算案について異議なく承認された。

5) 新理事承認について・・・<資料 5>

次期会長候補者である辻井副会長より、資料 5 に基づき新理事候補者選考の経緯と、新理事候補者案承認について提議された。

【審議結果】

新理事候補者案の 30 名について、異議なく承認された。なお、新理事会発足は、6 月 14 日（金）開催予定の総会において正式承認となるが、登記手続きの関係から本承認をうけ、会長名での委嘱状発行、就任承諾書等書類の郵送を行うことが併せて承認された。

6) 小島基金リカレント教育支援制度の内容変更について・・・<資料 6>

奥林副会長より、小島基金リカレント教育支援制度の内容変更について説明がなされた。変更箇所として、奨学金 40 万円を支給(1 人 1 回限り)、JFST への投稿を 3 年間無料とすること、選考方法、被支援者の義務が提議された。

【審議結果】

上記修正箇所変更について異議なく承認された。併せて、修正された案に沿って、本年度の募集を開始することも承認された。5 月 20 日（月）以降にも、学会誌及びホームページにおいて本年度の募集を開始することとした。

7) 名誉会員推挙の件について・・・<資料 7>

名誉会員規定に該当する会員について資料 7 に基づき説明がなされた。本年度総会への名誉会員推挙については、鞠谷雄士氏と浦川宏氏を推薦することについて提議された。

【審議結果】

上記提議について、総会に付議することが異議なく承認された。

3. 報告事項

1) 80 周年記念事業の進捗について・・・<資料 8>

・ 5/13 時点のご報告

【発表申込について】

・ 発表申込者は 240 名（発表予定者も含めると 259 名）（目標 300 件の 80% (86%)）

・ 発表申込件数が概ね増加傾向ではあるが、セッション間で人数がアンバランス（会場費用を考え、合同セッションでの開催を予定）

・ 海外からの申込みはまだまだ少ない状況

Plenary & Invited も含めて全体で 日本：海外 = 90:10

・ 海外の参加者増強のため、開催時期の近い ITMC, ATC 担当者と組織・実行委員会で調整中（韓国から 20~30 名、台湾から 10~20 名程度を見込む）

【スポンサー（展示・広告）について】

・ Gold スポンサー 8 件申込（(一財) ボーケン品質評価機構、東洋紡（株）、日清紡テキスタイル（株）、日本製紙（株）、（株）ミマキエンジニアリング、富士紡ホールディングス（株）、セトラスホールディングス（株）、大日精化工業（株））

・ 一般スポンサー 2 件申込（マイクロ・イクイップメント（株）、京大・京都工繊大）

・ その他、理事企業様含む複数より申込の予定連絡あり

【申込延長について】

・ アカウント登録・発表申込の締め切りを、5/13 から 5/31 まで延長
国内外問わず、近隣・お知合いへの積極的な勧誘へのご協力を依頼

2) 繊維系三学会会長・副会長懇談会(第 4 回)開催について・・・<資料 9>

・ 大田会長より第 4 回懇談会についての懇談会の議事録と共に報告がなされた。

・合併の検討を再開することが正式に現理事会で承認されたことを受け、従前から不定期開催で情報交換のため開催してきた「繊維系三学会会長・副会長懇談会」は、2024年2月の「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第3回)」より、3学会合併協議を再開することを決定した。

・3月31日(日)に開催した「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第4回)」が、合併に関する協議会としては、第2回となることを明確にするため、今回、資料9のタイトルとして「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第4回)及び三学会合併に関する協議会(仮称:注)(第2回)議事録」としている。協議会では、合併に関する進め方を相談させていただくことを主な目的としている。

(注:本理事会の翌日に開催された三学会合併に関する協議会(仮称)(第3回)にて、正式名として「繊維系三学会合併に関する協議会」と決定されましたので、追認となりますが、以下の議事録には正式名を記載させていただきます。)

・前回理事会で、「繊維系三学会会長・副会長懇談会(第3回)」議事録を共有し、ワーキング委員(WG)をいかに選任するかを報告した。今回、合併検討再開にあたり、過去に会員から出された様々な課題に対して、各WGの中で、重点的に議論していただくことをフレームワークとしている。

・全く白紙から議論すべきとの意見もなかったわけではないが、長期間かけて行われた議論が無駄にならないよう、継承できるものはそのまま継承しようとのことから、前回WGでの議論や答申の内容をたたき台とする形で進めることとした。ただ、答申が出されてから2年以上経過していることから、必要な部分は過去の答申を見直しWGには現状の課題に合わせて、新たに検討や提案を組み入れていただけるように進めていただくことにした。

・資料には、各WGメンバーが示されている。前回と名称が一部変更になったWGとして、将来構想検討WG(主に、全体のビジョン、ミッション、合併後に何を目指すかなどを検討、提案)がある。

・4月、5月の間で、新WGにおいて第1回目(キックオフ)会合が開催されたと報告を受けている。初回は、過去のWGでの議論の振り返り、現在の課題抽出、想定されている期限(中間報告6月末、中間答申8月末、最終答申10月)の確認をしていただいた。

・5月19日(日)「三学会合併に関する協議会(仮称)(第3回)」にて各WGからの報告がある予定であり、全体の目線合わせをして、合併に関する現状と課題が整理できることになる。

・6月、8月の両方か、どちらか、また最終答申案が出た際に、会員の皆様との公聴会の様な意見交換を持つ場を設ける事を予定。会員の皆様へ現状の説明を行い、ぜひ色々なご意見やご議論を交わす場としたい。特に、財務検討WG、事務局検討WGの事務局問題など焦点であった重要な課題も多くあるので、できるだけ課題を明確にして、「先送りにしない」、ある程度のロードマップを作成して会員の皆様へお示し、提案させていただきたいと考えている。

・上記のようなフレームワークで議論を進めさせていただくことが決定したことを、まずは理事の皆様にご報告し、今後議論が本格化していく中で、中間報告、答申につ

いても逐次、議事録を共有させていただく。また、会員の皆様へも同様に議事録をHPで公開し、意見をまとめていきたいと考えている。

・報告事項ではあるが、本日お認めいただければ、「三学会合併に関する協議会（仮称）（第2回）」の「（仮称）」を外して、会員の皆様へ議事録を公開させていただきたいと考える。また、WG や検討開始に関する経緯を会長メッセージとし、議事録と合わせて公開させていただくことが提議された。

→ 議事録公開について異議なく承認された。

【質問、その他】

年次大会検討 WG 委員の中澤理事より質問

・検討 WG での具体的な問題抽出や議論を開始した段階であるが、年次大会の開催時期やセッション名、セッション数などを検討する段階で、「各学会で議論して」との指示あり困惑している。このような場合、WG の委員間で議論するより、もう少し上位の繊維学会検討組織がいるのではないかと考える。

・WG での議題に対して、学会として意見を求められた時の対応の仕方。委員に一任されるものなのか、関連する催事検討 WG 委員と相談して進めるべきなのか、または、執行部と相談すべきなのか迷うところである。

・仮に4月に新学会が発足した場合、6月に合同での年次大会開催は困難ではないか。場所や会場数の問題など、委員だけでは決められない課題が多い。また、時期をずらすことは、他学会の行事との重複や、繊維学会の秋研や夏季セミナーにも影響が及ぶことでもあり、WG だけの議論は困難を極める。

（回答）最終的には、其々の WG から提案いただいたことを、各学会で検討したうえで決定することになるので、まずは、委員からの意見として、WG で回答いただいて構わない。また、WG を超えて影響が大きいものや、早めに決めないといけないことについては、繊維系三学会合併に関する協議会、もしくは事務局検討 WG に提案いただき、全体として優先順位を上げて議論していく。

国際化検討 WG 委員の木村理事より質問

・WG は、繊維系三学会会長・副会長懇談会の下組織かどうか。

・各学会の現状を把握することがWG の目的と考え、国際化検討WG の初回を開催したが、年次大会検討WG からの状況聞く限り、もっと先、合併した後のことを議論、検討している。WG の目的は何か。

（大田会長回答）各WG は繊維系三学会合併に関する協議会の下組織です。また、合併を目的として、合併後のあるべき姿を設計するのがWG の目的であると考えている。

・協議会が仮称である以上、正式な組織として立ち上がっていない段階で、合併を前提としたような先の議論をするべきでないのではないかと。また、合併するか否かは決まっておらず、投票によって決まるものである。投票することになった場合に、会員

へ与えられる情報を纏めていくのが WG の姿かと思っていた。答申の意味がわからない。WG は合併することを見せるための方法なのか？

(大田会長回答) 三学会合併に関する協議会(仮称)は、名前だけが仮称で組織はできており、5月19日(日)の協議会で仮称を取ることを承認いただくこととしている。

・協議会を正式に立ち上げるかどうかは会長・副会長間だけで決められるものなのか？繊維学会総会において、正式に会員へ議決を取るなどのプロセスは不要なのか？

(大田会長回答) 理事会で承認された三学会合併に関しての協議を三学会で再開(協議)するために、三学会で何らかの会議体を設置するのは自明であり、総会での承認は不要と考える。

・国際化検討 WG では、3学会の現状とどういうビジョンを持っているか、その中で近いところがどこなのか考えるのが役目と考えていた。合併した後の姿を描くのが WG の意味合いなのか？今の時点でそのような姿を描けるのか？

(大田会長回答) 合併した後の姿を描くのが WG である。合併した後の姿を描けるものと描けないものがあるが、まずは課題を明確にしてほしいという事が各 WG への依頼となる。

・WG によっては、非常に具体的なものと、ビジョン的なものが入り混じっている。現時点では、合併をするかどうか判断いただくためのメリットを、まず会員の皆様に理解していただくことが本来の WG のミッションではないか？答申とは、WG からの提言をどこかで会員に開示して、会員懇話会を開催するつもりでの指示か？各 WG が並走していて、ロードマップもないままだと、どういう質の提案を WG に要求されているのかわからない。

(大田会長回答) WG によっては非常に具体的な議論が必要なところや、ビジョン的なものにとどまるところがあっていると思う。

(村瀬財務副会長回答) 会員の皆様に合併するかどうか判断いただくためにも、具体的な部分を決めないといけないので、それについては WG で決めていただきたい。

・WG からは統合後の姿を見せるだけであって、決めるのは合併が決まってからではないか。「WG で決める」と言うと、投票行為と相違してしまうのではないか。あくまで、WG での提案、決定事項ではないと理解している。

(大田会長回答) 前回の WG での決定事項が、会員の皆様に十分に示されていなかったことは反省事項。合併後にどうなるか、過去の WG での詳細な議論の内容が伝わらないまま、合併の投票となってしまった印象を会員各位に与えたのではないか。一部の理事からは「先送り体質」との批判を受けたことは事実である。WG では、合併したらどんな形になるか、どんなメリット・デメリットがあるかを議論いただき、今回は会員の皆さんへも WG の議論の中身も公開していきたいと考える。

・今回投票を行う前には、相当精緻なものでその後が全てデザインされてスキームが整っているものを会員へ示す考えか。1年でそこまで行きつかないのではないか？

(大田会長回答) 会員各位がメリット・デメリットを判断できる課題の整理と、できればそれに向けての対応策の提示も、検討が可能な範囲で繊維系三学会合併に関する協議会で議論したい。課題の提示が重要であって、完璧で精緻であることを求めているものではない。

・WGでの議論を進めるためにも、何をどこまでやらないといけないのか、目標値を示して、設定していただきたい。(すでに、年次大会検討WGではかなり細かい答えを出しているが) 前回の反省を踏まえて、「前はここまでしか示さなかったからダメだった」という意見であれば、それをどこまで具体的に示すのかを検討する論点を出していただきたい。目標が不明確なまま、細かい論点からは議論ができない。

(大田会長回答) 細かい論点はWGにお願いしている。まず、合併に対してどういう課題があるかをあげていただくことが先と考える。

・WGで何か議論してくれればいいというようにしか見えない。何をやってくれというオファーがない限り、議論が進まない。特に、前回の失敗があったにも関わらず、白紙からの検討でないのであれば、尚更明確に示していただく必要がある。

(奥林運営委員長回答) 目標値、論点を検討して、回答させていただく。

・大前提として、「もし合併したらどうなります」を空想の上での議論として進めて良いか。また、提案は何パターンかあってどれがいいか伺うことであって、答申としてどれか一つしか提案しないのであればそれは決定していることを意味する。可能性のあるものをいくつか提示するのがWGの役割であると理解しており、何かを決定し、どうすべきかを提言する必要はないと考えている。最終答申は、どれか一つのような出し方ではなく、あくまで複数の提案であるべきである。

(奥林運営委員長回答) 決めるというのは、「WGからの提案内容を決める」であり、提案を認めるかどうかは会員の皆様による投票であると理解している。また、答申についても複数の提案であるべきについて了解した。

年次大会検討WG委員の中澤理事より質問

・年次大会検討WGでは、前回答申を決定事項としており、今後どうブラッシュアップしていくかの方向性ですでに話し合いが進んでいる。前回答申はかなり具体的で、WGの範囲をこえてしまうように思う。

(大田会長回答)

WGの性格によって異なる。合併の時にクリティカルである部分(年次大会、学会誌など)が含まれるWGもあればビジョン(あるいはメリット・デメリット)を提供するに留まるWGもあると思われゴールは其々で異なっても構わない。トップダウンで目標値を設定して「ここまで決めてください」という事も一つの考え方であるが、全体の目標・基本的な考え方は示しながらも、ボトムアップ、WGメンバーや会員の皆様からのご意見を纏めながら進めていく事も重要ではないかと思う。

今後の進捗についても、引き続き理事会で随時報告を行うとともに、会員へも随時情報公開することが伝えられた。

3) 企画委員会 基礎講座の準備状況について・・・<資料 10>

「2024 年 繊維学会基礎講座」

2024 年 7 月 18 日（木）、19 日（金）オンライン開催

5 月 15 日（水）時点での参加申込み 4 名

4) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部（支部長 松葉理事）

・令和 6 年度化学系学協会東北大会

2024 年 9 月 14 日（土）、15 日（日）、秋田大学手形キャンパス開催

発表申込締切 7 月 19 日（金）

・北海道紙パルプ懇談会 共催予定

・2024 年第一回支部講演会

2024 年 7 月 25 日（木）、山形大学米沢キャンパス

「ナノテラスの利用に向けた、放射光を利用した X 線構造解析」

・今年度は、1～2 回対面での講演会開催予定

② 関東支部（支部長 中澤理事）

・2024 年繊維学会年次大会（創立 80 周年記念）

2024 年 6 月 12 日（水）～14 日（金）、タワーホール船堀開催

事前申込締切 5 月 31 日（金）

企業展示 12 社、広告 9 社

5 月 15 日（水）時点での参加申込み 300 名

・関東支部委員の交代を予定、現在調整中

③ 東海支部（支部長 武野理事）

・東海支部長 名古屋工業大学 永田謙二先生へ交代。

④ 北陸支部（支部長 末理事）

・令和 6 年度繊維学会北陸支部学術普及講演会「災害に備える繊維技術」報告

2024 年 4 月 18 日（木）開催 参加者 71 名

・北陸支部役員会

2024 年 4 月 18 日（木）開催

・支部役員交代の件について

庶務 高村映一郎 先生（福井大学大学院）

会計 鈴木悠 先生（福井大学大学院）

⑤ 関西支部（支部長 櫻井理事）

・繊維学会関西支部会議&記念講演会報告、見学会実施予定

・関西繊維科学賞、奨励賞も公募し実施予定

・関西支部長 京都大学 上高原浩 先生へ交代

・ISF2024 に加えて、秋季研究発表会への参加協力依頼

⑥ 西部支部（支部長 吉村理事）

・第 61 回化学関連支部合同九州大会

共催：高分子学会九州支部ほか 7 化学関連支部

会場：北九州国際会議場

会期：2024年6月29日（土）

- ・西部支部長 大分大学 氏家誠司先生へ交代。
- ・2025年夏季セミナーについては、氏家先生を中心に準備開始とのこと。

⑦ 研究委員会関係について

- ・堅ろう度標準化研究委員会役員会
2024年5月14日（火）オンライン開催

⑧ ATC-17 開催について

- ・Asian Textile Conference 17(ATC-17)への参加について依頼した。
会場：Feng Chia University, 台湾・台中
会期：December 17-19, 2024
発表募集詳細 G1.Fibers and Polymer Materials, G2. Textile Processing and Properties, G3. Chemical Treatments (including Dyeing and Finishing), G4.Technical Textiles, G5. Smart Textile and Materials, G6.Green Materials and Technology, G7.Fashion and Clothing Science, G8.Managing and Marketing

5) 各委員会からの報告等について

① 運営委員会

- ・小島基金リカレント教育支援制度内容変更が承認されたことを受け、本年度の募集を開始することが伝えられた。
- ・論文賞の賞金を50,000円+JFST論文投稿クーポン30,000円（使用期限3年間）へ変更することが運営委員会にて承認されたことが報告された。2024年度6月の受賞式分より、賞金が変更となることが伝えられた。

② 将来構想委員会

- ・委員会が開催されていないため、今回は特筆すべき事項なし。

③ 国際連携委員会

木村理事より、

- ・2023年10月より国際連携委員を中心に、我が国が繊維学会を中心として、どんな学術を世界に対して連携を持ちかけるかの議論を進めてきたこと
- ・その中で、科研費への申請を目標とし、3月と5月に、繊維学会を中心に活躍されている高分子物性の先生方と研究会を実施するなど半年間活動してきたこと、科研費申請に向けたディスカッションも実施してきたが、論点が纏めきれなかったことなどから、今年6月の申請は見送り、来年の申請にむけて準備を進めていくこと
- ・今年下期にはシンポジウムや研究会を立ち上げて皆と議論を深め、よりブラッシュアップしていく予定であること、国際連携の日本から発信できるものを作ることを目指して活動していること
- ・合併の国際検討 WG では若手育成や留学生など論点があるが、国際連携委員会では、まず学術の発信を中心に活動を進めていることなどが報告された。

6) 支部長・研究委員長会議について

- ・4月24日（水）にオンライン開催したことが奥林運営委員長より報告された。会議では、支部長と研究委員会委員長より、2023年度の活動報告に加え、2024年度の活動予定についても報告された。

- ・本年度の本部支援金については、例年通り、繰越金が 100 万円未満の 3 支部と 12 研究委員会とすることも承認されたことが報告された。

7) 編集委員会の報告

① 繊維学会誌

- ・順調に発行準備が進んでいること、寄稿に関する協力の御礼が伝えられた。

② 論文誌 JFST

鬘谷編集委員長より

- ・順調に発行準備が進んでいることに関する謝意、
- ・編集委員長は武野理事に交代となること、
- ・小島基金から投稿料半額補助を利用して、ATC-16 同様に ISF2024 特集号についても準備を進めていくことが伝えられた。

8) その他案件

① 小島基金リカレント教育支援制度 本年度募集について・・・<資料 11>

- ・審議事項と併せて報告がなされたため、追加での説明は省略された。

② 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・<資料 12>

資料 12 と共に、学会誌広告掲載について大田会長、事務局から協力を依頼。

③ 今後の理事会日程について

6 月 14 日（金）臨時理事会 15 時～（新旧理事）対面開催（タワーホール船堀）

7 月 27 日（土）対面開催（関西）

9 月 7 日（土）オンライン開催

11 月 16 日（土）オンライン開催

2025 年 1 月 18 日（土）対面開催（東京）

2025 年 3 月 22 日（土）オンライン開催

【監査委員会】

2025 年 4 月 26 日（土）監査委員会 対面開催（東京）

④ 今後の学会行事担当について

*2027 年 6 月年次大会 別会場手配について検討する必要あり

	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	中止	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部
秋季研究発表会	関西支部	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部

⑤ 交代理事挨拶

- ・本理事会をもって交代される理事各位より挨拶をいただいた。

4. 監事コメント

【金谷監事】

コロナ禍以降、学会行事が対面開催に戻ってきたことによる活発な活動がとても印象的であった。また、実行委員、理事で協力し創立 80 周年記念シンポジウム（ISF2024）の準備

を進められていること、大変喜ばしく思っている。3学会合併に関する議論については、協議会（仮名）で、重要な課題について議論が進められていることを議事録から読み取ることができた。特に、将来ビジョンや方向性を明確にするために、事務局問題や財政問題、国際問題を含む様々な重要課題を WG で適切に進められていると感じましたし、執行部が皆さんの意見をしっかり聞こうとしている姿勢は評価できる。ただ、本日の議論にもあったが、課題によっては現時点ではどこまで将来ビジョンを議論できるかは、扱う課題によってもかなり異なる部分があるとも感じた。合併については、会員の総意で投票により決まるので、現時点では何も言うことはできないが、今後もよりきめ細かく進めていかれることを期待している。最後に、1年間の変則的な執行部ではあったが、大田会長に感謝すると共に、次期会長、新理事会の運営に期待を寄せるとともに、交代される理事、新理事には今後も引き続き繊維学会を支えていただければと思います。

【土田監事】

長時間に渡り活発なご議論をいただきましてありがとうございました。まず、理事の皆様には、ISF2024 に積極的に参加登録いただき、関係者への勧誘にも引き続き協力をいただきますようお願いいたします。次に、合併会議について本日も報告がありましたが、前回の合併失敗の理由は様々ありますが、今回はできるだけ会員の皆様への情報開示を頻繁に行なっていただきたく思います。また、WGで協力いただいている先生方も、情報を自分だけに留めることなく、執行部や関係者と共有し議論を進めていただくことが大切かと思えます。皆様には、将来の日本の繊維技術や繊維科学、ひいては世界の繊維技術、繊維科学の発展に関わる重要な課題を検討していることを常に頭に置いて作業していただきたく思います。

【小原監事】

大田会長はじめ、今回退任される理事の皆様には、難しい課題が山積している時期に大変力を尽くしていただいたと思います。本日、合併協議会の議事録がHPに公開されることについて報告がありましたが、それは大変良いことだと思います。その際に、ぜひ協議会の目的やプロセス、今後のスケジュール案等に加え、各WGの役割などの説明を加えてから会員の皆様と共有いただけると、より理解していただきやすいのではないかと思います。宜しく申し上げます。また、WGの議題として合併後の行事などを検討するだけでも、なかなか難しい問題かと思えます。例えば、年次大会などでは移行期間などを設けるなど、柔軟な運営の可能性などを含め、議論されてはいいのではないかと感じました。

第709回理事会 議事録署名人捺印

議長: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印